

「一人ひとりに合った学び実践校（仮称）」 のたたき台と、本日議論したいポイント

2024年6月18日（火）
長野県教育委員会事務局

はじめに：本取組の位置づけ

- ✓ しあわせ信州創造プラン3.0（長野県総合5か年計画、R5～R9年度）内に8つある新時代創造PJのうち、「**個別最適な学びへの転換プロジェクト**」に位置付けられています。
- ✓ **「すべての子どもが、「好き」や「楽しい」、「なぜ」をとことん追求するための一人ひとりに合った学びを自ら選択できる状態**」を、目指す姿として掲げています。
- ✓ それに向けた取組の柱として、以下3つを掲げています。
 - Action1：公立における「一人ひとりに合った学び実践校」を長野県から**
 - Action2：教員が真に必要な業務に専念し、学校の価値を最大化する学校運営
 - Action3：学校以外の新たな場の創出と、それらを安心して選択できる価値観への転換
- ✓ **本取組は、このうち特にAction1にフォーカスし、実践校の設置（指定）・推進を行うための検討会議です。**

本検討会議で、何を検討したいのか？

【行政の一般的な整理】（第4次長野県教育振興基本計画より抜粋）

＜社会背景・情勢＞

変動性・不確実性・複雑性・曖昧性
多様化 # 人口減少・少子高齢



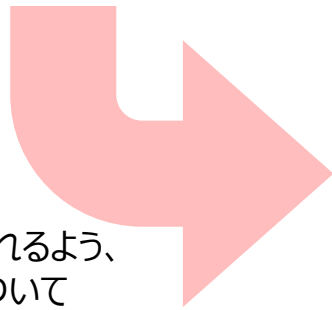
＜方向性＞

- ✓ 一律一様の教育から「個別最適な学び」への転換と、多様な他者との対話や協働等による「協働的な学び」の一体的な推進
- ✓ 一人ひとりが多様な幸福を追求し、新しい価値やよりよい社会を創造する力を育む



これを推進するための取組として、「一人ひとりに合った学び実践校（仮称）」を創りたい。と県は言っている。

だけど、実際にやるのは、県ではなく、現場（学校、教員、地域）なので、



適切に進められるよう、
次のことについて
予め整理したい。

- ✓ 誰のために？ = 子ども
- ✓ 何を目指すのか？
- ✓ どうやって創るのか？
- ✓ 役割分担は？（教員、学校、地域、行政）
- ✓ 県として、どんな支援が望ましいか？

本日、議論したい点

その1：理想像のイメージすり合わせ

「一人ひとりに合った学び」が実現する学校とは？

子どもたちが自ら学びを“選んでいける”ようになればよいと考えているが、どうか？
それにより、理想像として掲げる「子どもたちの自己実現が出来る学校」に
近づけるのではないかと考えているが、皆さんはどのように考えるか？

その2：進め方

「一人ひとりに合った学び実践校」をどう創っていけばよいか？

地域の独自性を入れながら実践校を創っていく際に、学校、地域、市町村教委は、何をすればよいのか？

県は実践校をどのように選定していけばよいか？

まずは実践校で実践し、その知見を他校に広げる形で進めたいイメージだが、どうか？

県はどんな支援が必要と考えるか？

「一人ひとりに合った学び」が実現する学校とは？

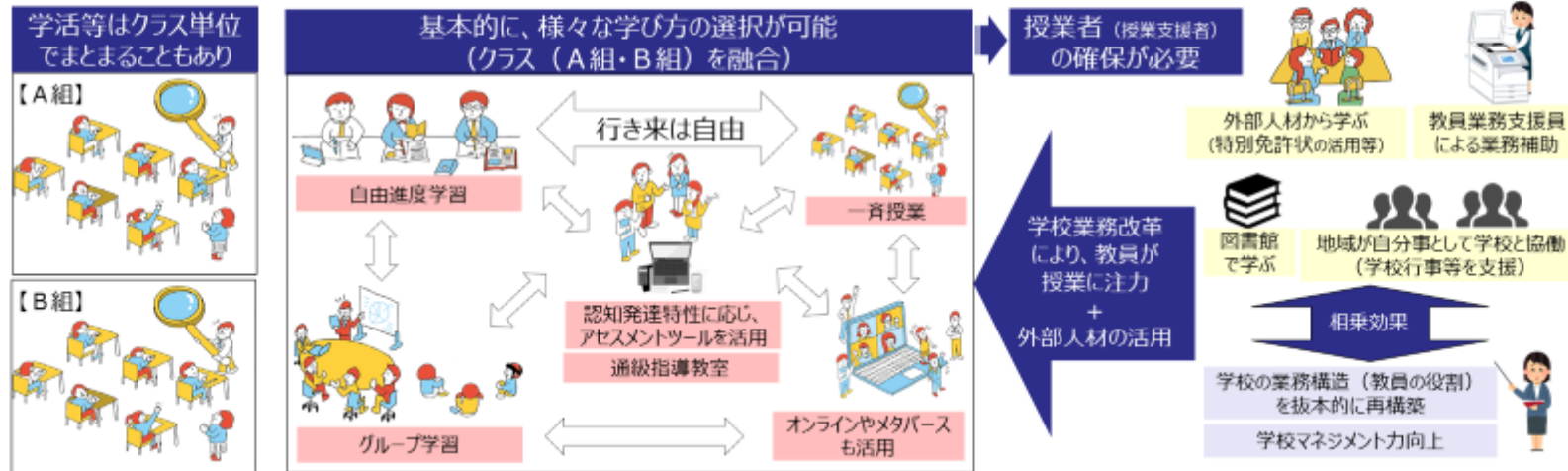
[MEMO]

ここでの「一人ひとりに合った学び」は、個別最適な学びのことを指しているのではなく、個別最適な学びと協働的な学びが一体的に行われていることを指しています。

出典：長野県令和6年度当初予算案における主要施策「新時代創造プロジェクト」より抜粋

「一人ひとりに合った学び実践校」で実現したい姿（イメージ）

すべての子どもが、「好き」や「楽しい」、「なぜ」とことん追求するための一人ひとりに合った学びを自ら選択できる状態



「個別最適な学び」×「協働的な学び」×「リアル（対面授業）」×「最新のICT」×「+α」のベストミックス校

5年間のスケジュール	2023	2024	2025	2026	2027
「一人ひとりに合った学び実践校」設置 検討事業	実証事業*実施&効果検証	設置検討会 予算要求	実践校設置・運営（教員加配等により支援）	取組（成果）を県内学校に横展開	

*実証事業：認知発達特性に応じた学び、D×リーディング校、個別最適な学び、学びの改革バイオニア校構築

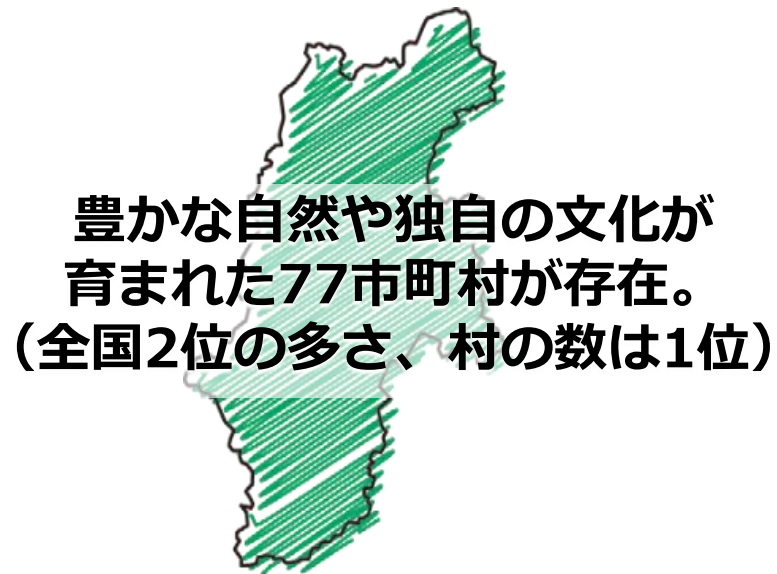
さらに、この実践校を
**教員の資質能力の
向上の場としても活
用したい！**

これを、当該学校だけでなく
地域と共に創る

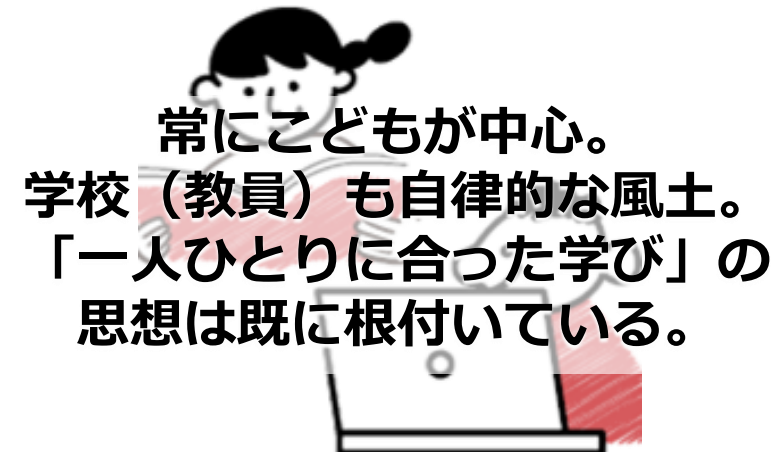
子どもたちの自己実現ができる学校（ウェルビーイング）

なぜ「実践校」で進めたいか？

【長野県の**地域**の特徴】



【長野県の**教育**の特徴】

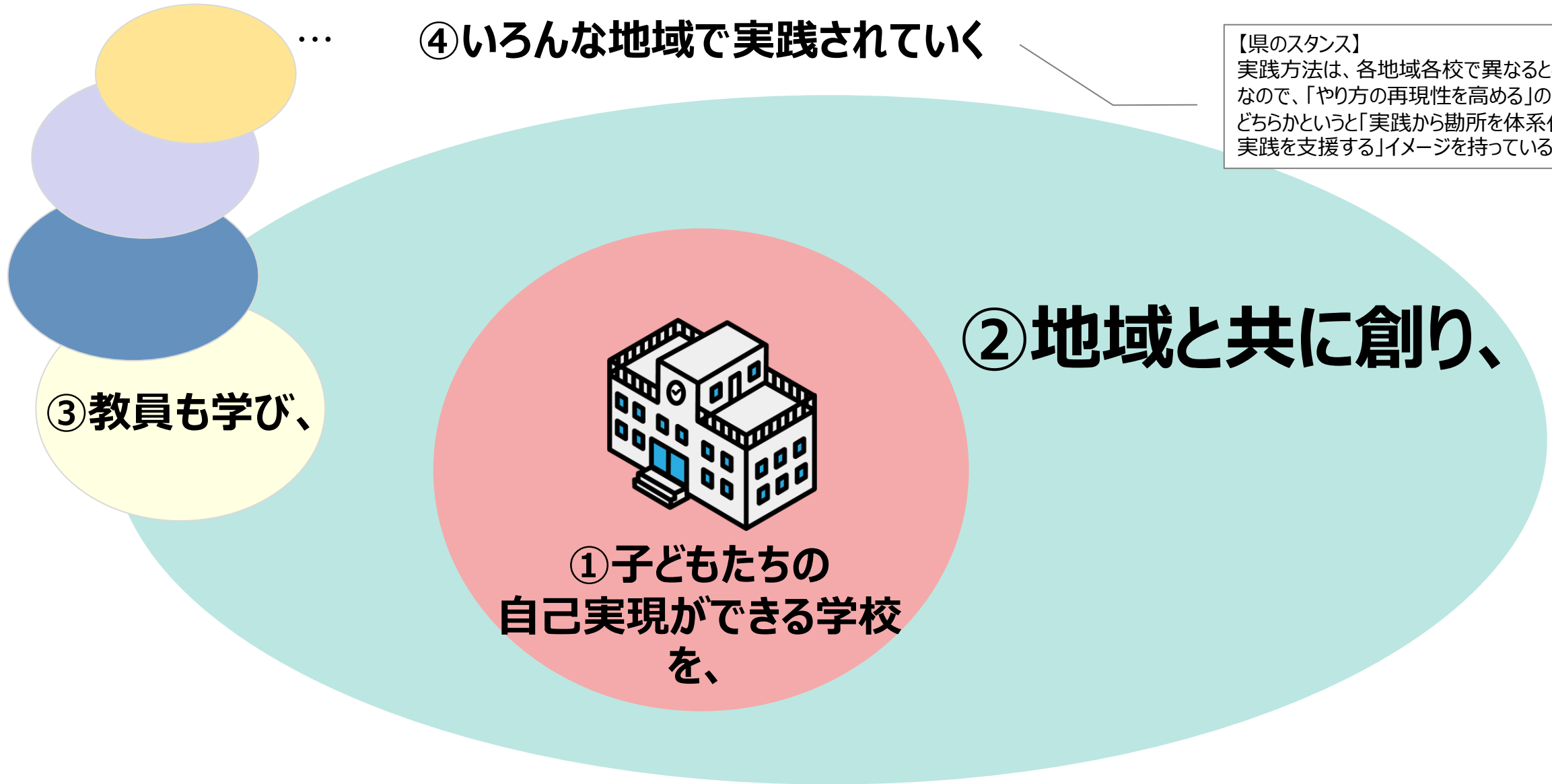


学校づくりを実践するのは、学校と教員、地域であるが、
本県には、地域の独自性が高く、学校や教員の裁量性も高いという特徴がある。

そのため、全域一律で進めるよりも、パイロット校&地域で実践し、各校は実践校の取組から学び自校に取り入れる、という方法がよいと考える。

(学校づくりの権限は、なるべく子どもに近いところへ。県は、実践校という媒体づくり、支援、横展開促進。やりたい地域をどう支えられるか)

目指したい状態のイメージ



実現するための要件は？（イメージ）

（目指したい学校像）

子どもたちの自己実現ができる学校を 地域とともに創る。

何を
する？

（例えば）

- ・地域の強み（自然、文化、産業、人々等）を活かした、その地域ならではの教育を実践。（そこから子どもたちは、一人ひとりが、自分の興味・関心、特性等に応じた学びを見つけていく）
- ・そのための、実践校、市町村（教委）、県（教委）の役割は？

具体的
要件は？

（例えば）

- ・地域の強みを活かした学びを進める際のプロセスと成果をまとめ、公開すること。
- ・一人ひとりに合った学びを検討する際に、それまでの実証事業等で得た学びの手法や常識にとらわれない学校運営に挑戦すること。

【手法の例】

- ・プロジェクト型学習（PBL）
- ・信州型UD
- ・特例校制度の活用（教育課程特例校、授業時数特例校）
- ・教科横断的な学び
- ・教科書だけでない学び（教室以外の場所での学び）
- ・宿題が自由
- ・単元内自由進度学習
- ・DXリーディング校（ICT利活用）
- ・アセスメントの活用による児童生徒理解
- ・柔軟な一単位時間の運用（35分授業など）
- ・校則を子ども視点から考え直すor校則がない
- ・授業を選べる（行き来自由）

必要な支援は？（イメージ）

取組を強力に
推進するため

実践校の取組

（例えば）

- ① 相応のインセンティブ
 - ・加配（学校に？市町村教委に？期間は？）
 - ・視察費、セミナー参加（他所の好事例に学ぶ）
 - ・有識者謝金
- ② 意欲的な管理職を配置
- ③ 支援員の拡充（学びのコーディネーター等）
- ④ 校舎改修費等のハード面補助（壁を取っ払う等）
- ⑤ 教材等のソフト面補助（先駆的コンテンツ開発費）
- ⑥ ……
- ⑦ ……

実践校以外にも
波及を図るため

取り組み事例の横展開

（例えば）

- ① 伴走支援者の確保・県教委の支援体制整理（支援しつつ、支援者も共に学ぶ？）
- ② 進め方、勘所等を体系化した支援ツールの開発
- ③ 情報発信
- ④ 管理職研修
- ⑤ 中核教員研修
- ⑥ ……
- ⑦ ……

本日、議論したい点（再掲）

その1：理想像のイメージすり合わせ

「一人ひとりに合った学び」が実現する学校とは？

子どもたちが自ら学びを“選んでいける”ようになればよいと考えているが、どうか？
それにより、理想像として掲げる「子どもたちの自己実現が出来る学校」に
近づけるのではないかと考えているが、皆さんはどのように考えるか？

その2：進め方

「一人ひとりに合った学び実践校」をどう創っていけばよいか？

地域の独自性を入れながら実践校を創っていく際に、学校、地域、市町村教委は、何をすればよいのか？

県は実践校をどのように選定していけばよいか？

まずは実践校で実践し、その知見を他校に広げる形で進めたいイメージだが、どうか？

県はどんな支援が必要と考えるか？

検討会議の検討スケジュール

全3回の会議を通じて、
①理想像 ②進め方 ③各役割&県の支援
について検討したい。

第1回

本日



最初は①②メイン、

第2回

7~8月頃



徐々に③に意向しつつ、時には①②に戻りながら、

第3回

9月頃



①②③を検討



結果まとめ・次回に向けた整理



結果まとめ・次回に向けた整理

E.O.P